

*道環境生活部循環型社会推進課「循環資源利用促進特定課題研究開発事業」



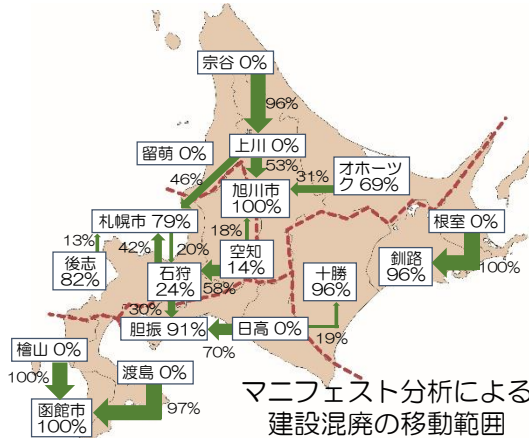
背景

- 道内では、建設混合廃棄物（建設混廃）は年間約6.2万tが埋め立て最終処分
- 全国に比べ、道内の建設混廃の排出量に対する最終処分率(68%)が高く早急な対応が必要

成果

1 建設混廃の処理における実態

- 中小の建設/解体業者で建設混廃の排出量が多い
- 木造戸建住宅からの建設混廃の排出割合が高い
- 分別が難しい複合材料の使用
- 選別処理能力の高い中間処理施設が少ない
- 最終処分場が各地で増加傾向
- 選別後のふるい下残さの再資源化が進んでいない



最終処分量が多い

ふるい下残さ

2 解体現場・中間処理施設における分別作業の改善提案

①現場や施設の改善

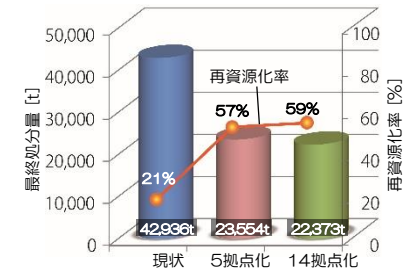
- 教育による分別意識の向上
- 中間処理施設の選別能力の向上
- 建築物の分別しやすい工法の採用



ライン選別の導入

②中間処理施設の拠点化

- 拠点化を行うことで再資源化率が向上



5拠点化：石狩、渡島、上川、十勝、苫小牧市
 14拠点化：14振興局

最終処分量と再資源化率のシミュレーション結果

期待される効果

課題の明確化

施策への反映と再資源化の推進